

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月31日

上場会社名 SREホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2980 URL <https://sre-group.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長 兼 CEO (氏名) 西山 和良
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO 兼 コーポレート本部長 (氏名) 益子 治 TEL 03-6274-6550
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	10,210	38.8	1,067	9.2	961	1.5	790	23.5
2022年3月期第3四半期	7,355	145.7	977	159.0	947	159.1	640	176.1

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 821百万円 (28.5%) 2022年3月期第3四半期 639百万円 (175.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	49.00	48.58
2022年3月期第3四半期	41.23	40.19

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	23,568	10,930	45.1
2022年3月期	23,018	9,798	42.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 10,631百万円 2022年3月期 9,729百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,300	20.1	1,650	18.5	1,500	15.3	930	4.2	58.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(注) 特定子会社の異動には該当していませんが、第2四半期連結会計期間より、ギグセールス株式会社（2023年1月1日付でDORIRU株式会社に商号変更）を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	16,155,995株	2022年3月期	15,937,237株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	297株	2022年3月期	173株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	16,142,143株	2022年3月期3Q	15,532,668株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら経済社会活動の正常化が進み、個人消費や設備投資を中心に持ち直しの動きが見られます。もっとも、世界的な金融引締め、それに伴う景気下振れリスクなど先行き不透明感が続いています。一方で業界横断的にデジタルトランスフォーメーション(DX)に対する機運の高まりは継続しており、成長加速ないし事業変革に向けた取り組みが各所にみられる状況です。

こうした中、当社グループは「A DECADE AHEAD 今の先鋭が10年後の当たり前を造る」をミッションに掲げ、大きく2つの事業を展開してまいりました。1つ目の事業は、不動産/金融業界からIT/ヘルスケア領域まで様々な業界のDXに向けて、機械学習等のテクノロジーを活用したモジュールをベースに、パッケージ型クラウドツールやターナーメイド型アルゴリズムを提供する「AIクラウド&コンサルティング」事業であります。2つ目の事業は、お客様への確かな価値提供とテクノロジーの積極活用の両立を目指すアセットマネジメント、不動産コンサルティング、デベロップメント/インベストメント事業を展開する「不動産テック」事業であります。

実業(リアルビジネス)である不動産/金融/IT事業を自ら手掛け、業務上の非効率や課題に直面することで、機械学習等の高度なテクノロジーの活用可能性を見出し、当社グループの内部オペレーションにそのテクノロジーを取り込み、競争力・効率性の改善を図っております。同時に、リアルビジネスのテック化により効果が検証された業務推進・効率化ツールは、当社自身がユーザーとして使い勝手をフィードバックすることで実務有用性を磨き込み、同業他社のお客様に提供しております。加えて、ツールのベースとなるモジュールを活かすことで、差異化されたコンサルティングを幅広い産業のお客様にご提供するビジネスモデルを構築しております。

実業(リアル)を手掛けることが、実務有用性の高いAIソリューション・クラウドツールを提供していくことに密接かつ効果的に機能しており、この「リアルビジネスを内包したテックプロバイダー」という独自の顧客提供価値の追求により、様々な業界のDXや事業拡大に貢献しております。

当社グループが手掛けるAIクラウド&コンサルティング事業の業務環境をみれば、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけとする業界横断のDX気運の高まりが継続し、当社事業においても追い風となっております。不動産テック事業の業務環境をみれば、様々な種別の不動産に対する投資ニーズの高まりが引き続き見られます。一方個人向け住宅の仲介事業につきましては、マンション価格上昇等により、首都圏のマンション総販売戸数が昨年と比較して下回る状況にあります。

このような業務環境下、当社グループは、不動産売買契約書の作成業務をオンラインで手掛けることが可能な「SRE 契約重説 CLOUD」等、不動産業界、金融業界に対して積極的にクラウドサービスを提供し、その他産業に向けても自社の持つAIモジュールを活かしたDXソリューションを提供してまいりました。また、中長期的な成長を見据えて、「リアルビジネスを内包した実務有用性の高いテクノロジー」による価値創出の幅を広げるため、レジデンス/オフィス/商業施設/ホテル/介護施設など様々な暮らしの場であるリアルアセットの運用管理を通じて触れることのできるリアルビジネス領域を拡張し、その知見を活用した新しいサービス創出に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、クラウドソリューション(CS)・アナリティクス&トランスフォーム(A&T)ともに顧客獲得が着実に進み、ARR(アニュアルリカーリングレベニュー)を積み上げた他、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティも計画どおりに進捗したことで、売上高10,210,363千円(前年同期比2,854,974千円増(38.8%増))、営業利益1,067,332千円(前年同期比89,707千円増(9.2%増))、経常利益961,606千円(前年同期比14,294千円増(1.5%増))、親会社株主に帰属する四半期純利益790,918千円(前年同期比150,528千円増(23.5%増))となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<AIクラウド&コンサルティング事業>

クラウドソリューション(CS:不動産価格推定エンジンなどのディープラーニング技術を核とするパッケージ化されたAIを用いたクラウドサービス)は、新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけとする業界横断のDX気運の高まりが継続する中、確かなプロダクトメリットを提供しつつ、アウトバウンドセールスのパートナー企業との連携、及び自社セールス体制の増強を進め、課金契約数を着実に増やすとともに、解約率も非常に低い水準を維持してまいりました。

アナリティクス&トランスフォーム(A&T:幅広い業界におけるマーケティング活動、営業活動といった顧客企業のような経営課題に対して、将来予測分析ツールを用いた解決策またはシステムの提供または共同ビジネス開発を行うサービス)は、AIモジュールを活かして差異化されたコンサルティングを提供することで、一部ロイヤルカスタマーのリピート案件獲得を拡大し、当第3四半期連結累計期間において着実に事業を拡大させてまいりました。加えて、共同開発による新規クラウドソリューションの仕込みを進めました。

その結果、CS・A&Tともに顧客獲得が着実に進み、ARRを積み上げたことで、当第3四半期連結累計期間におけるAIクラウド&コンサルティング事業の売上高は2,110,229千円（前年同期比806,428千円増（61.9%増））、営業利益は878,433千円（前年同期比322,108千円増（57.9%増））となっております。

<不動産テック事業>

アセットマネジメント&コンサルティングにおいては、「SRE AI査定 CLOUD」等の当社テクノロジーを活用した新たな不動産投資運用、売買仲介ビジネス等を提供するとともに、スマートプロパティとして、IoT技術やESG対応を施したマンション/オフィス/介護福祉施設/再生エネルギー施設等の開発・投資及び投資家向けの販売を計画に沿って実施しております。加えてこれらの物件等をファンドに供給し、そのファンド内での資産運用を受託する当社の100%子会社であるSREアセットマネジメント株式会社が2022年10月に営業を開始しました。当社グループは、これらの不動産事業の全てにおいてテクノロジーを活用したDX化を推進するとともに、その中で生まれた気づきを幅広いお客様に提供するAIソリューション・ツールに反映しております。

その結果、アセットマネジメント&コンサルティング・スマートプロパティともに計画どおり進捗したことで、当第3四半期連結累計期間における不動産テック事業の売上高は8,600,845千円（前年同期比2,249,652千円増（35.4%増））、営業利益は312,747千円（前年同期比161,356千円減（34.0%減））となっております。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ549,701千円増加し、23,568,605千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より59,045千円減少し、20,204,965千円となりました。これは主にその他の流動資産が177,519千円増加した一方、棚卸資産が221,525千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末より647,027千円増加し、3,299,120千円となりました。これは主にギグセールス株式会社（2023年1月1日付でDORIRU株式会社に商号変更）の持分を追加取得し、連結の範囲に含めたことにより、関係会社株式が308,090千円減少し、のれんが593,932千円増加したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末より38,279千円減少し、64,519千円となりました。これは株式交付費が38,279千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ582,161千円減少し、12,638,410千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より847,535千円増加し、5,988,860千円となりました。これは主に短期借入金が835,359千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末より1,429,696千円減少し、6,649,549千円となりました。これは主に長期借入金が1,446,919千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,131,863千円増加し、10,930,195千円となりました。これは主に新株予約権の行使及び新株発行により資本金が55,395千円、資本剰余金が55,395千円増加したことによるものであります。また、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が790,918千円、ギグセールス株式会社（2023年1月1日付でDORIRU株式会社に商号変更）の持分を追加取得し、連結の範囲に含めたことにより、非支配株主持分が207,043千円増加しております。

なお、自己資本比率は45.1%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月11日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,999,148	2,872,071
売掛金及び契約資産	411,868	535,391
営業出資金	649,696	638,210
棚卸資産	15,813,956	15,592,430
その他	390,538	568,058
貸倒引当金	△1,196	△1,196
流動資産合計	20,264,011	20,204,965
固定資産		
有形固定資産	615,358	701,648
無形固定資産		
ソフトウェア	605,052	660,121
のれん	151,339	745,272
その他	29,536	17,952
無形固定資産合計	785,929	1,423,345
投資その他の資産	1,250,805	1,174,126
固定資産合計	2,652,093	3,299,120
繰延資産		
株式交付費	102,798	64,519
繰延資産合計	102,798	64,519
資産合計	23,018,904	23,568,605
負債の部		
流動負債		
買掛金	119,348	106,040
短期借入金	3,797,090	4,632,449
未払金	74,182	139,080
未払費用	398,500	422,293
未払法人税等	249,743	182,551
賞与引当金	169,632	73,443
その他	332,827	433,001
流動負債合計	5,141,325	5,988,860
固定負債		
長期借入金	7,844,000	6,397,081
退職給付に係る負債	60,688	65,269
その他	174,557	187,199
固定負債合計	8,079,246	6,649,549
負債合計	13,220,571	12,638,410
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,088,600	4,143,996
資本剰余金	4,088,600	4,143,996
利益剰余金	1,554,424	2,345,343
自己株式	△1,233	△1,733
株主資本合計	9,730,392	10,631,603
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△686	81
その他の包括利益累計額合計	△686	81
新株予約権	68,626	91,468
非支配株主持分	—	207,043
純資産合計	9,798,332	10,930,195
負債純資産合計	23,018,904	23,568,605

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7,355,389	10,210,363
売上原価	4,490,522	6,322,391
売上総利益	2,864,866	3,887,971
販売費及び一般管理費	1,887,242	2,820,639
営業利益	977,624	1,067,332
営業外収益		
受取利息	3	4
持分法による投資利益	435	940
受取保険金	—	3,418
受取配当金	305	363
その他	2,768	394
営業外収益合計	3,513	5,120
営業外費用		
支払利息	31,887	65,766
株式交付費	—	38,729
その他	1,937	6,349
営業外費用合計	33,824	110,845
経常利益	947,312	961,606
特別利益		
段階取得に係る差益	—	280,841
特別利益合計	—	280,841
特別損失		
固定資産除却損	—	63,851
オフィス移転関連損失	—	104,266
特別損失合計	—	168,118
税金等調整前四半期純利益	947,312	1,074,328
法人税、住民税及び事業税	265,979	303,507
法人税等調整額	40,942	△50,238
法人税等合計	306,922	253,269
四半期純利益	640,390	821,059
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	30,140
親会社株主に帰属する四半期純利益	640,390	790,918

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	640,390	821,059
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,006	767
その他の包括利益合計	△1,006	767
四半期包括利益	639,383	821,826
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	639,383	791,686
非支配株主に係る四半期包括利益	—	30,140

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIクラウド&コ ンサルティング	不動産テック	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,004,196	6,351,193	7,355,389	—	7,355,389
セグメント間の内部 売上高又は振替高	299,604	—	299,604	△299,604	—
計	1,303,801	6,351,193	7,654,994	△299,604	7,355,389
セグメント利益	556,325	474,103	1,030,429	△52,805	977,624

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△52,805千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. のれんの金額の重要な変動

「AIクラウド&コンサルティング」において、当社が九州シー・アンド・シーシステムズ株式会社の全株
式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、のれんの金額が154,779千円増加しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	AIクラウド&コ ンサルティング	不動産テック	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,641,749	8,568,613	10,210,363	—	10,210,363
セグメント間の内部 売上高又は振替高	468,479	32,232	500,711	△500,711	—
計	2,110,229	8,600,845	10,711,075	△500,711	10,210,363
セグメント利益	878,433	312,747	1,191,180	△123,848	1,067,332

(注) 1. セグメント利益の「調整額」△123,848千円は、セグメント間取引消去を記載しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。